

月影

平成十九年四月八日（第十八号）

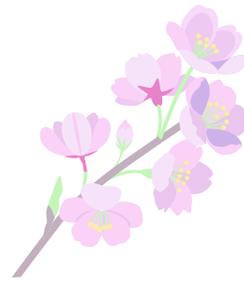
浄土宗西山禅林寺派
せいざんぜんりんじは

常林院

すべてのものは

縁えんによって生しょうじほろ

縁えんによって滅ほろびる



釈しゃく尊そん

「縁」というのは仏教の基本の思想です。

「縁起えんぎ」、「因縁いんねん」ともいい、すべてのものは、因（原因）と縁（条件）の関係から存在しているという教えです。種をまくと芽が出て花が咲きます。でも、種をまいただけでは花は咲きません。水や日光がなければ、種は種のままです、花が咲くことはありません。

この種が「因」で、水・日光が「縁」といえます。「因」と「縁」が互いに関係しあって花が咲きます。

これを人間に当てはめて考えてみると、自分がこの世に生まれてきたのは父母がいてくれたおかげです。そして祖先がいてくれたおかげです。また、毎日、いのちを保持できるのは食べ物のおかげです。

今日、自分がこの世に存在していられるのも、自分一人だけの力ではなく、たくさんの人や物（縁）に助けられ、支えられて存在しています。

目に見える、あるいは目に見えない、数え切れないたくさん縁のおかげで、自分という花を咲かすことができています。

そしてまた、自分も気づかないうちに、他の誰かの縁となつていのです。

『花は、咲く縁が集まって咲き、葉は、散る縁が集まって散る。ひとり咲き、ひとり散るのではない。』

縁によって咲き、縁によって散るのであるから、どんなものも、みなうつり変わる。ひとりで存在するものも、常にとどまるものもない。すべてのものが、縁によって生じ、縁によって滅びるのは永遠不変道理である。』

釈尊

四月八日は花まつり。お釈迦様の誕生日です。

春の彼岸会厳修

先月、三月二十一日に、春の彼岸会を厳修いたしました。ご多忙中、たくさんの方にご参詣いただき、ありがとうございました。

彼岸会当日はお天氣に恵まれ、良い参詣日和となりました。

仏事と作法

三月越し

中陰の四十九日間を、三ヶ月に渡って行うとよくないと、昔からよく言われてきました。

なぜ、三月越しはよくないのか、いろんな説がありますが、

「三月みつき↓身みつき↓身みうち内あとが後あとをついていく」

「四十九日しじゅうくにちが三月みつき↓始終しじゅうくにち苦みつきが身みつきつき↓いつも苦みつきしみみつきが身みつきについてしまふ」

といったように、言葉の語呂合わせから始まった迷信が多いようです。

しかし、迷信と言えども、今日まで言われ続けているという事は、迷信でいっていることが現実に起こるこ

とが多かったのか、または現実にならないようにしたいという思いが強かったのかもしれない。

それでは、中陰が三月越しになる場合はどうすれば良いのでしょうか。

全く気になさらない方は普通に七日ごとの法要を勤めればよいのですが、気になさる方は忌明けを早めるようにします。普通、四十九日（七七七）をもって忌明けとしますが、忌明けを三十五日（五七七）に早めることで、三ヶ月にまたがらないようにします。その後の、四十二日（六七七）、四十九日（七七七）も勤めます。

あとがき

毎年、四月二十二日から二十五日の四日間。本山永観堂ぎよきにおいて、御忌（法然上人の命日供養）が厳修されます。全国から参詣者が集まる、宗派最大の年中行事です。

秋の紅葉も綺麗ですが、新緑のもみじも鮮やかで綺麗です。是非、ご参詣していただきたいと思えます。